

令和6年 新年のご挨拶

持続可能な社会のため、 自動車リサイクル事業者として、 サーキュラーエコノミーの 実現に向けて邁進します

新年、明けましておめでとうございます。
年頭にあたり、新年のお慶びを申し上げます。
また旧年中は、NGP組合事業活動に
多大なるご協力を賜り、改めて感謝申し上げ
ます。

昨年は、新型コロナウイルスの5類感染
症への移行に伴い、経済活動の正常化に向
けた動きが進んだものの、依然として地政
学的リスクの長期化、原材料費・エネルギ
ー価格の高騰や円安の進行など先行きが不
透明な状況が続きました。

また昨年は世界中で猛暑に見舞われ、東
京では11月に141回目の夏日を記録し、
年間夏日の過去最多記録を更新しました。
世界の平均気温についても、これまでの最
高記録を更新することが確実視されており、
その主要因は化石燃料の使用による二酸化
炭素の排出だとされています。

地球温暖化により、世界各地で深刻な災
害、異常気象が発生しており、気候変動対
策は国境を越えて取り組むべき喫緊の課題
となっています。2023年11～12月に
かけて、アラブ首長国連邦(UAE)のド
バイでCOP28(国連気候変動枠組条約第
28回締約国会議)が開かれました。その
中で、再生可能エネルギーのさらなる導入
策が協議され、2030年までに世界の再エ
ネ設備容量を3倍に拡大することについて、
日本を含む130カ国が合意しました。こ
れは、「パリ協定」に基づき気温上昇を
1.5℃以内に抑えるためには、2030年ま

でに再エネの設備容量を3倍に拡大するこ
とが必要とされたためです。また、「2030
年頃までのおよそ10年で化石燃料からの
脱却を加速する」ことが盛り込まれ、合意
に至りました。化石燃料に言及し、その使
用削減を明確に示したことについて、評価
する声が上がっています。

このような文章が合意された理由として、
二酸化炭素の排出量は減っておらず、予想
を上回るペースで温暖化が進んでおり、対
策が急務となっている現状が上げられます。

産業界では、2050年までのカーボンニ
ュートラル達成に向けて、サーキュラーエ
コノミーが注目されており、環境に配慮し
たモノづくりへの転換が求められています。
自動車産業においても、従来の直線的なプ
ロセス(原料→生産→消費→廃棄)から、
使用が終わったものをもう一度製品に戻す
サーキュラーエコノミー化したプロセスへ
と、どのようにシフトしていくかが課題と
なっています。

欧州では、2030年までに自動車に使用
するプラスチックの25%以上を再生材と
すること、さらにそのうちの25%以上は
廃車由来とすることが定められました。ま
た日本でも、使用済み自動車からプラスチ
ックやガラスを資源として回収した場合に
インセンティブを付与する資源回収インセ
ンティブ制度が議論されており、使用済み
自動車から回収される資源に注目が集まっ
ています。



NGP日本自動車
リサイクル事業協同組合
理事長 小林信夫

これまで自動車リサイクル業界では、使
用可能な部品をリユース部品として取り外
した後、残った車体は主に鉄、銅、アルミ
に分別し、資源としてきました。しかしこ
れからはそれらに加えて、プラスチックや
ガラスなどといったものの分別も求められ
ることになります。使用済み自動車の資源
を種類ごとに精緻に分別し、資源循環を行
うことができるのは、自動車リサイクル事
業者だけです。これまで自動車業界では、
製品のライフサイクル内での各工程、すな
わち開発・製造・販売・使用・再利用、そ
して最終処分までの連携は最小限に留まっ
ていました。これからは様々な方と連携し、
この世界的課題に対応していくことが必要
だと考えています。

また、カーボンニュートラルを目指すう
えで、作ったものを長く使い続けることが
重要であるとされています。使い終わっ
たら捨てるという消費行動から、リユース
することを前提とした社会へと変化を促し、
リユース部品で車を修理してカーボンニ
ュートラルに貢献することが当たり前となる
ための活動も行っています。

それを実現するには、自動車整備・修
理工場の皆さまの協力が必要不可欠である
と考えています。一昨年9月より、整備・
修理工場にリサイクル部品をご利用いただ
いた際に、それに伴うCO₂削減量を環境
貢献書及びデータで提供するサービスを開
始しました。これらのサービスを通じて、
カーユーザーの意識変化につなげていき
たいと思っています。そしてリサイクル部品
の供給と環境貢献活動の支援を通じて、引
き続き皆さまの事業活動に貢献していき
たいと考えております。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を心より
お祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていた
だきます。

持続可能な社会の実現に向けた 新技術・サービス・取り組みに関する幅広い情報を発信

「SDGs Week EXPO2023」が12月6～8日の3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催されました。

同展は「サキをヨミ、現状をカエル力（チカラ）」をテーマとして、「エコプロ（第25回）」、「社会インフラテック（第6回インフラ維持管理・老朽化対策総合展）」、「カ

ーボンニュートラルテック（第3回）」、「自然災害対策展（第5回）」の4つの展示会が連携し、環境問題をはじめとした社会課題の解決を図るための幅広い情報を発信することを目的としたものです。会場内では、持続可能な社会の実現に向けた新技術、製品、サービス、各種活動などが紹介されま

した。自動車関連技術としては、燃料電池や太陽光発電の活用によるCO₂排出削減、新素材の採用による環境負荷軽減などが提案されています。

全体で442企業・団体、966小間のブースが出展し、3日間の来場者数は66,826人でした。



環境省

CNF（セルロース・ナノ・ファイバー）素材を用いたコンセプトカーを中心に、同素材の活用事例を紹介。コンセプトカーは同型通常車と同強度に設計され、総重量は約15%軽い



自動車リサイクル促進センター

自動車リサイクル制度の概要や修理時にリサイクル部品を使用することのメリットを紹介。主催する標語や絵画コンクール受賞作も展示し、「作品の制作過程で自動車リサイクルについて学んでほしい」



E3Mobility

ユタカ技研と共同開発した太陽光EV充電器「E3 Charger プロトタイプモデル」を紹介。5ナンバーサイズで独立し、車輪付きで簡単に移動可能。1ヵ月平均100kw（約700km走行分）発電できる



川崎重工業

2050年のカーボンフリー社会を目指し、水素エネルギーの製造や備蓄、運搬と流通のあり方を提案。自動車用水素エンジンの開発を進めながら、2030年までにサプライチェーンの確立を目指す



KOBELCOグループ

低CO₂で製造できる「Kobenable Steel」を中心に環境負担軽減の取り組みを伝えるほか、VR溶接シミュレーターや遠隔で重機の操縦ができるシステム「K-DIVE」の体験会を開催し注目集める



JFEグループ

カーボンリサイクル高炉、直接還元製鉄法での水素活用、電気炉法、CCUS（二酸化炭素回収・有効利用・貯留）の技術開発を並行して進め、2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指す方針を示した



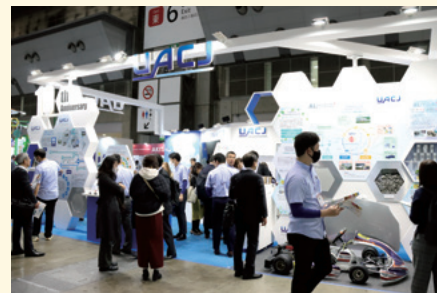
デンソ

バスのラッピングや社用車の塗装を手がける同社は塗装に水性塗料を使用。環境と作業者の健康が守れることを紹介し、「水性塗料の認知度と、使用による環境負荷低減をアピールしていきたい」



トヨタL&F東京

燃料電池フォークリフトを展示するとともに、太陽光による電力で水素を製造し、フォークリフトに供給するシステムを紹介。災害発生による停電時などにおける燃料電池発電機の活用も提案した



UACJ

アルミ素材・製品のブランド「ALmitas+（アルミタス）」を紹介。アルミの新用途拡大を目的とし様々なメーカーと共創するもので、レーシングカーのプロケット（歯車）などに採用されている

サーキュラーエコノミーの 実現へ向けた取り組みを紹介

NGP協同組合と瀬戸内オリーブ基金は、SDGsWeekEXPO2023に共同出展しました。

今回のブースは、NGPにおける3R（リユース、リデュース、リサイクル）の取り組みと豊島事件の歴史について順を追って学ぶことができるように、4つのエリアで構成されています。

まず「リユース」エリアでは、自動車リユース部品を使用することによるCO₂削減効果を紹介しています。また、自動車リサイクル部品を活用する整備・修理工場や、使用済み自動車をNGPへ引き渡した取引先などに対し、CO₂削減量などの数値を「環境貢献書」とデータで提供するサービスを通じて、自動車関連事業者における環境貢献へ向けた取り組みを支援していることもPRしました。

「リデュース」エリアでは、これまで廃棄されてきたモノを有効活用して、新たな価値あるモノを生み出す「NGPアップサイクルプロジェクト」の取り組みを紹介しました。アップサイクルプロジェクトによって使用済み自動車の取扱説明書から作られた「環境教育ノート」、取扱説明書と梅の種を掛け合わせて製造したノベルティ「廃車王 炭エコクック」、使用済み自動車のエアバッグとシートベルトを活用し、「テンマクデザイン」とコラボして開発・製造した「薪バッグ」の実物がそれぞれ展示され、多くの来場者から関心を集めました。

「リサイクル・サーキュラーエコノミー」エリアでは、NGPが使用済み自動車から回収した鉄や銅、アルミ、プラスチックの実績を示すとともに、回収した素材を再び資源として有効活用することで、新たな資源を使わず、ゴミを出さない「サーキュラーエコノミー」の考え方を紹介しました。その上で、これまでのエリアで紹介してきたNGPの各種取り組みが、サーキュラーエコノミーの実現にどのように貢献しているのかを図で分かりやすく解説しています。

そして4つ目のエリアでは、戦後最大級と言われる産業廃棄物不法投棄事件「豊島事件」の歴史を紹介することで、サーキュラーエコノミーに取り組むことの大切さを

伝えています。

今回のブース出展にあたりNGPは「カーボンオフセット証明書」を取得しました。カーボンオフセットとは、日常生活や経済活動において避けることができないCO₂等の温室効果ガスの排出について、まず可能な限り排出量の削減に取り組み、その上でどうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資することなどにより、排出される温室効果ガスを埋め合わせするという考え方です。このカーボンオフセットに取り組むことで、CO₂排出削減に向けた活動を支援することができます。今回取得した「カーボンオフセット証明書」は、展示物の作成やブースの運営などで使用されたエネルギーのカーボンオフセットを完了したことを証明するものです。

NGPは今後も各種取り組みを深化させるとともに、ステークホルダーとの連携を強化することで、サーキュラーエコノミーの実現に貢献してまいります。



多くの子どもたちが訪れたNGP・瀬戸内オリーブ基金の共同ブース



総務広報委員会・渡辺辰美委員長（左）、廃車王委員会・斎木崇司委員長（中央）、サステナブル委員会・岸本恭秀委員長（右）が中心となって、展示ブースを企画・運営



「リデュース」エリアでは、NGPアップサイクルプロジェクトによって生まれた製品の実物を展示



瀬戸内オリーブ基金の取り組みを支援するための募金箱を設置。募金にご協力いただいた方には、使用済み自動車から取り外したエンブレムをプレゼント



ブース出展にあたり「カーボンオフセット証明書」を取得

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和5年11月:

1,940t



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和5年11月:

0.6t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品をきくと115品目）を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 から版

(株)多田自動車商会、環境経済学を学ぶ大学生の工場見学を受け入れ 自動車リサイクル制度及び 業界の認知度向上に貢献

NGP協同組合に加盟する(株)多田自動車商会(平田武士社長、本社=兵庫県神戸市)は11月17日、自動車リサイクル促進センター(細田衛士理事長、JARC)が主催する「自動車リサイクル現場見学会」に協力し、近畿大学で環境経済学を学ぶ学生による工場見学を受け入れました。

JARCの「自動車リサイクル現場見学会」は、若年層の自動車リサイクルに関する認知の拡大及び関心の喚起などを目的として、自動車リサイクルの現場を見学する機会を提供する取り組みです。工場見学会には学生15人、教員1人が参加し、自動車リサイクルシステムの概要や工場における使用済み自動車の適正処理の流れなどについて説明を受けた後、実際の作業現場を見学しました。

同社の多田みゆき常務取締役は「参加した学生の中には事前に自動車リサイクルについて勉強してきたグループもいて、皆さん非常に熱心に見学していました。一方、JARCが工場見学会を企画した理由には、若年層における自動車リサイクルの認知度が低いという背景があると聞きました。当社はこれまで小・中学生の工場見学や職場体験を受け入れておりますが、今後も自動車リサイクル業界の認知度向上を目指した活動を継続していきたいと考えています。また、使用済み自動車は買い取ることができるということも広く社会へ発信し、放置車両問題の解決にも貢献していきたいです」と、今後も各種活動を通じて、自動車リサイクル業界の認知度向上及び社会課題の解決に貢献していく姿勢を示しました。



工場見学会の様子

NGP、交通遺児育英会に寄付金を贈呈

子どもたちの教育や生活を支援

NGP協同組合は、交通遺児育英会(石橋健一会長)に寄付金を贈呈しました。

NGPは、リユース部品に品質保証の証としてギャランティーシールを貼付するとともに、同部品の販売で得た売り上げの一部を交通遺児育英会などに寄付しています。これは、使用済み自動車を取り扱う事業者として、交通事故で親を亡くした遺児らの教育や生活を支援したいとの思いから、1991年から毎年続けて

きた活動です。

小林信夫理事長の代理として谷洋紀事務局長が交通遺児育英会を訪問し、石橋会長に目録を手渡すとともに感謝状を受け取りました。石橋会長からは「毎年ご支援頂いていることに感謝しています。当会では交通遺児の負担を少しでも減らすため、返還が不要な各種給付金の拡充を進めています。そのような取り組みが進められるのも、皆さまからの寄付のお



交通遺児育英会・石橋健一会長(写真左)と
NGP・谷洋紀事務局長

かげです」と、感謝の言葉をいただきました。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



ZERO®
CO₂
PRINT



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ(石油系溶剤 0%) など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、再生可能エネルギー 100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出される CO₂ 全量をカーボンオフセット(相殺)した「CO₂ ゼロ印刷」で印刷しています。